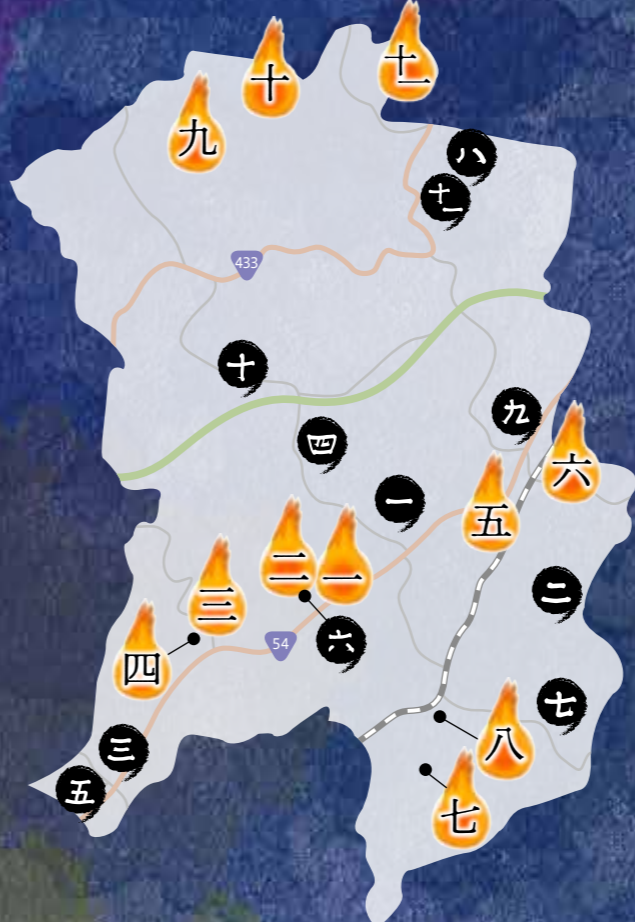


不思議の国の

あきたかた

日本には昔からその地域で
まことしやかにささやかれる言い伝えがあります。
いつ生まれたのかも分からない、誰が言い始めたのかも分からない、
そんなお話がここ安芸高田市にもたくさん存在しているのです。
今回はその一部をご紹介します。
ちょっぴりミステリアスな世界へといざないます。



満月の夜に現れる白馬

常友日南山の三叉路のそばに、馬がうずく
まったような岩があります。言い伝えによる
と昔、満月の夜になるとその岩のあたりから
バカボコと音がして白馬が一頭真っ直ぐ南に
向かって走り、近くの神社のあたりで消えた
そうです。神社には4坪ほどの土盛りの祠が
ありました。この土盛りはいくら掘っても石こ
ろばかり。そのかわり、近くの田畑からは石こ
ろひとつ出てこないと言われています。昔、四
人が手かせ足かせで徳田の郷田を開拓させら
れ、過酷な労働に耐えきれず多くの人が亡く
なったそうです。そうした凶人の血と涙のこ
もった石の捨て場だったのでしょうか。白馬は凶
人たちの無念が形になって現れたものだった
のかもしれない。

吉田町の 不思議

参考資料：
吉田町の伝説昔ばなし

崇り^たで 底なしになった池

灯籠山のふもとに、近くのお寺のお坊
さんが仏像を放り込んだ崇りで底なし
池になったという「仏放り池」がありま
す。現在は実用価値がなく利用されてい
ません。この池が最初に掘られた年代、
目的は不明ですが、お坊さんは隠れキリ
シタンの宣教師で、仏像は仏教信者にな
りすまして人々を欺くためのものだった
のではないかと推測されています。



昔、「鬼の木戸」と言われる、高さ2m
幅1mほどの岩穴がありました。ここ
には大きな青鬼が住んでいて、旅僧が通る
と捕まえて岩穴に連れ込み、岩戸を閉め
て何日も密閉し食べ物を与えず病人の
ようにして放り出したそうです。現在、
鬼の木戸の一部と思われる岩が土師ダ
ム管理事務所の下の崖に立っています。
大部分は風化して読めませんが、最後の
行に「元和八年八月（1620年代）」と
判別できるところがあります。

恐ろしい鬼の住処

八千代町の不思議

参考資料：
ふるさとめぐり
伝説を訪ねて

若き男女の恨みが残る 「お化け岩」

勝田日南の峠を通る古い道の傍らに大きな石
がありました。この峠を通ると石が女に化けて
悪さをしたそうです。昔、女のことではさかいの
あった二人の若い男の一方が、ある夜ここで待ち
伏せをして、相手の男を切りつけました。不意を
突かれた男は石を枕にして恨みながら命を落と
したそうです。それを知った女も近くの樹で後を
追って亡くなりました。この辺りはその後何度か
道路整備が行われましたが、この石を動かそう
という人は誰もいませんでした。現在この石
は、八千代の丘美術館の上り口にありま



甲田町の不思議

参考資料：甲田の昔話 とんかちり

六 ドウドウ淵のおはなし

大土川と押谷川が合
流するすぐそばに深い淵
「ドウドウ淵」がありま
す。ここには、大好きな許
嫁がいながら、代官に結
婚を迫られて淵に身を投
げたという娘の悲しい話
が残っています。里の人
の言い伝えでは、毎晩淵
から女の人の泣く声が聞
こえたそうです。ある晩、
淵から「ハッサバッサ」と
水の音がするのでのぞい
てみたら、大きな蛇がウ
ロコを青光りさせて、淵
の中をのたうち回っていました。悲しくて悲しくて、
とうとう蛇になって苦しんでいた娘の姿だと伝え
られています。それからドウドウ淵を蛇淵とも呼
ぶようになりました。



五 おさん狐の伝説

法恩地と井才田の
境に、勇山と呼ばれる
小山があります。昔から
この山には「おさん狐」と
称される狐がいるとされ、
人々に恐れられていました。今
でもこの小山を三回廻ってコン
コンと呼べば、その狐が出てくると
言い伝えられています。